

製品名: B Raf (9L5) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07396**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	84kDa

抗原情報

遺伝子名	BRAF
別名	B-RAF; p94; NS7; B-Raf proto-oncogene serine/threonine-protein kinase;BRAF;BRAF1;
遺伝子 ID	673.0
SwissProt ID	P15056
免疫原	ヒト B Raf の合成ペプチド

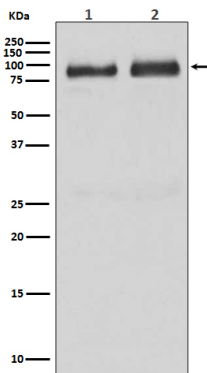
背景

細胞膜から核への分裂促進シグナルの伝達に關与する。海馬ニューロンのシナプス後応答において役割を果たす可能性がある。甲状腺がん、皮膚メラノーマで頻繁に変異し、低頻度ではあるが様々なヒトがんでも変異が認められる。活性化ループのリン酸化を模倣する活性化変異は、悪性黒色腫検体の60%に認められる。Raf変異は、一般的にRas活性化変異のみに認められる。細胞膜から核への分裂促進シグナルの伝達に關与するタンパク質キナーゼ（可能性が高い）。MAP2K1をリン酸化することで、MAPキナーゼシグナル伝達経路を活性化する（PubMed:21441910、PubMed:29433126）。海馬ニューロンのシナプス後応答において役割を果たす可能性がある（PubMed:1508179）。

研究分野

細胞生物学

画像データ



(1)ヒト脳溶解物、(2)HepG2細胞溶解物におけるB-Raf発現のウエスタンブロット解析。